

第 3 次大阪府子ども読書活動推進計画中の子どもの読書活動を取り巻く情勢の変化

R2.9.17

① 国の読書計画の改正【第 4 次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画】

平成 30 年 4 月に文部科学省が「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、おおむね 5 年（平成 30 年度～令和 4 年度）にわたる子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的方策を示している。

目標指標

子どもの不読率（1 か月に一冊も本を読まない子どもの割合）を令和 4 年度に小学生 2%以下、中学生 8%以下、高校生 26%以下とする。

計画改正のポイント

① 読書習慣の形成に向けて、

発達段階ごとの効果的な取組を推進

- 乳幼児期：絵本や物語を読んでもらい、興味を示すようになる 等
- 小学生期：多くの本を読んだり読書の幅を広げたりする読書 等
- 中学生期：内容に共感したり将来を考えたりする読書 等
- 高校生期：知的興味に応じた幅広い読書 等

② 友人同士で本を薦め合うなど、

読書への関心を高める取組を充実

- 読書会、図書委員、「子ども司書」、ブックトーク
- 書評合戦（ビブリオバトル）等の活動

③ 情報環境の変化が子供の読書環境に

与える影響に関する実態把握・分析

- スマートフォンの利用と読書の関係 等

② 学習指導要領の改訂

（読書活動に関する記載事項）

小学校、中学校及び高等学校の新学習指導要領においては、言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、**言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用し**、その機能の活用を図り、児童生徒の自主的、自発的な読書活動を充実することが規定されている。

また、幼稚園の新学習指導要領では、引き続き、幼児が**絵本や物語等に親しむこと**としており、それらを通して**想像したり、表現したりすることを楽しむこと**等としている。

（読書活動以外の改善事項）

幼稚園、小・中学校	高等学校	支援学校
<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実 ○理数教育の充実 ○伝統や文化に関する教育の充実 ○道徳教育の充実 ○体験活動の充実 ○外国語教育の充実 <p>（授業時数の増加）</p> <p>小学校 週当たりのコマ数を低学年で週 2 コマ、 中・高学年で週 1 コマ増加</p> <p>中学校 週当たりのコマ数を各学年で週 1 コマ増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実 ○理数教育の充実 ○伝統や文化に関する教育の充実 ○道徳教育の充実 ○体験活動の充実 ○外国語教育の充実 ○職業に関する教科・科目の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいの重度・重複化、多様化への対応 ○一人ひとりに応じた指導の充実 ○自立と社会参加に向けた職業教育の充実 ○交流及び共同学習の推進

③ 情報通信手段の普及

近年の情報通信手段の普及は、子どもの読書環境にも大きな影響を与えている。例えば、「読書をする時間がない」と回答する子どもの割合が高い中、1日当たりのインターネットの平均利用時間は年々増加している。

また、利用内容は動画視聴、ゲーム、音楽視聴、コミュニケーションの割合が高く、電子書籍の利用割合は低い。

情報通信手段普及の影響について、「情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加傾向にあり、あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、視覚的な情報と言葉の結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えながら読み解くことが少なくなってきたのではないか」という指摘もある。

（文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議論点まとめ」より）

（参考資料）

・子どもの1日当たりのインターネットの平均利用時間の変化（内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」）

	小学生	中学生	高校生
平成27年度	84.8分	127.3分	194.2分
令和元年度	129.1分	176.1分	247.8分

・子どものインターネットの利用内容（内閣府「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査」）

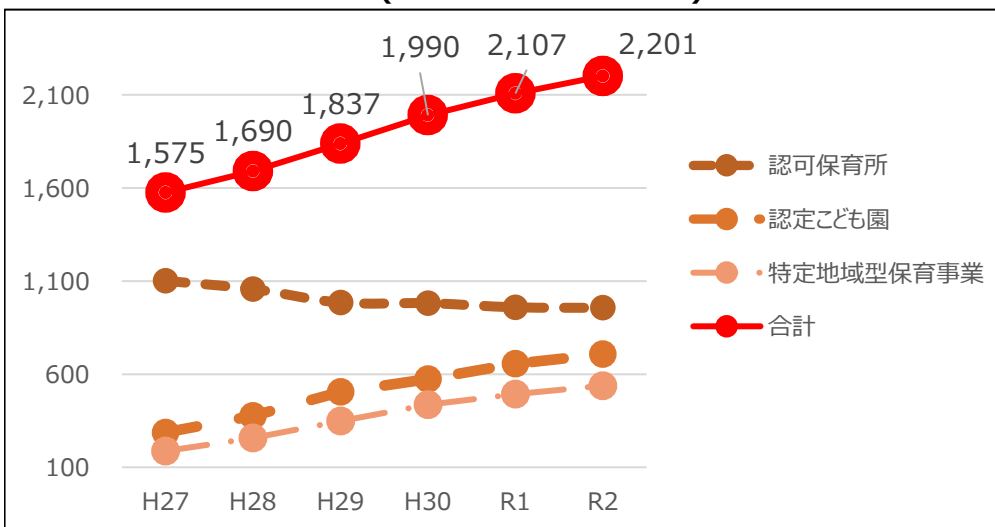
	コミュニケーション	ニュース	情報検索	地図・ナビ	音楽視聴	動画視聴	電子書籍	ゲーム	SNS等	勉強
小学生	41.8%	10.7%	34.0%	7.5%	37.2%	72.0%	4.6%	81.7%	2.5%	31.4%
中学生	75.3%	28.9%	60.1%	27.9%	67.5%	84.3%	15.9%	76.4%	8.8%	40.9%
高校生	90.1%	48.7%	71.6%	50.2%	84.3%	87.8%	24.3%	78.7%	29.1%	53.6%

④ 新設保育施設の増加

待機児童を減少することを目的に、大阪府の新設保育施設等が増加している。

（参考資料）

・大阪府の新設保育所数の推移（大阪府子育て支援課調べ）

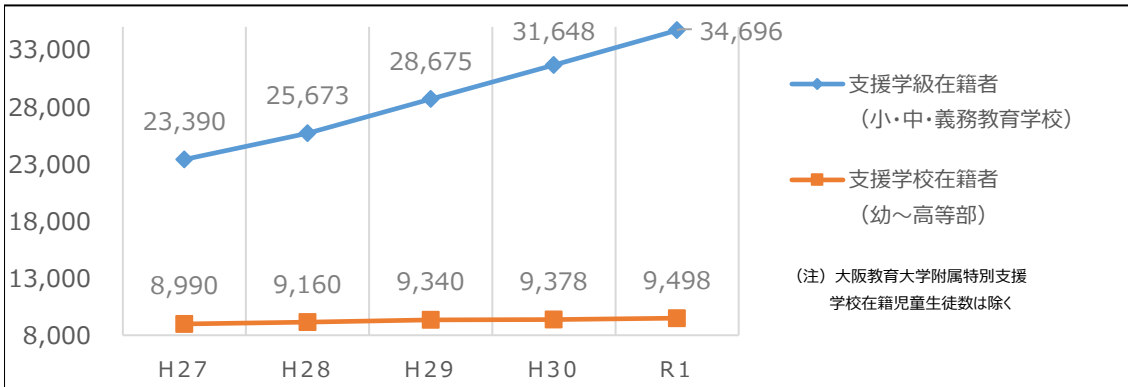


⑤ 支援を必要とする子どもの増加

大阪府の小・中・義務教育学校の支援学級在籍者数や支援学校在籍者数は増加している。

(参考資料)

・大阪府の支援学級在籍者数と支援学校在籍者数の推移 (大阪府教育庁「大阪の支援教育」)



大阪府の日本語指導が必要な子どもが増加している。

(参考資料)

・大阪府の日本語指導が必要な児童生徒数の推移

(H28、H30は文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」、H27、H29、R1は大阪府独自調査)

